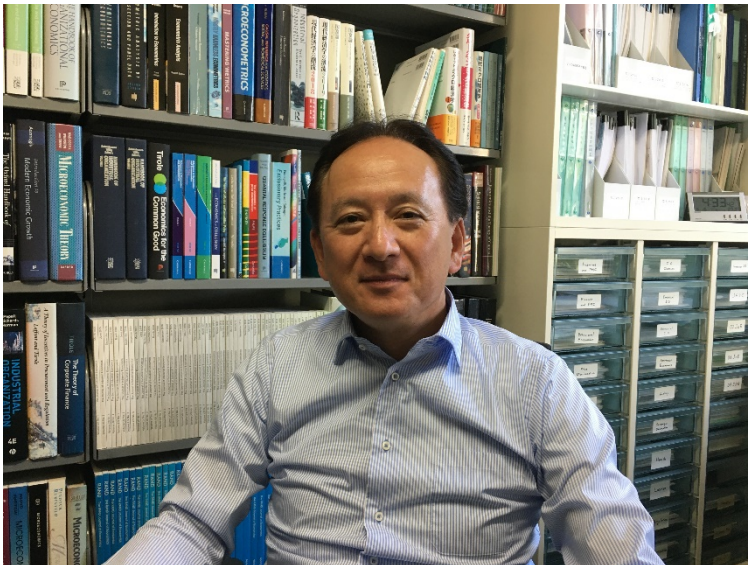


石橋孝次教授

専門：産業組織論

(インタビュアー：高橋雛子)



～生きた経済学～

Q ご専門の産業組織論について教えてください！

産業組織論を一言で表すならば「企業と市場の経済学」です。企業の行動の分析や消費者の需要の分析をして、市場のパフォーマンスを評価し、さらには競争政策（独占禁止政策）を考える学問です。もう少し具体的に言うと、独占企業や寡占企業の価格戦略だったり、品質や広告といった製品差別化行動、あるいは企業の合併・統合、参入阻止戦略、ネットワーク効果、イノベーションの問題などをミクロ経済学に基づいて分析します。これらのトピックはミクロでは出てこないけど、現実では大事だからね。ミクロでは語り尽くせないものを深くやる分野と言えますね。

Q 産業組織論と経営戦略の違いは？

分析対象が主として企業であるという点は経営学と似ています。ただ、経営学は個別のケースをより深く調べるのに対して、産業組織論は経済学のアプローチだから、ゲーム理論とか計量経済学を使って、一般的に成り立つ法則を調べるということになります。

経営戦略はビジネススクールにも設置されていたり、経営学の中でとても人気のある分野だけど、これは産業組織論をベースにした学問なんだよ。

Q 産業組織論の魅力を教えてください！

私は産業組織論を「生きた経済学」という意識でやっています。ミクロではたくさん理論が出てくるけど、じゃあそれをどう市場に当てはめるの？という現実的な要素が産業組織論にはある。市場は、自動車でも金融でも IT でも電力でもなんでもいい。あらゆる市場を対象にしている、理論もあって、実証もあって、制度や政策まで考える。まさに「生きた経済学」と言えるんじゃないかな。

Q 先生ご自身は今どういった研究をされていますか？

企業内の情報の非対称性と企業間の競争の関係について研究しています。普通は、「企業」と一括りにして言うけど、内部にはたくさんプレイヤーがいる。経営者や株主、従業員とかね。そうすると情報が行き渡らないということが重要で、それと企業間の競争がどう関係しているかを研究しています。

それから、混合寡占市場の品質競争の分析をしていました。混合寡占市場っていうのは、公企業と私企業が一緒になってる市場。例えば大学は国立、私立があって混合寡占市場と言えるね。

もう一つ言うと、行動産業組織という分野があって、今はその研究をしています。行動経済学を産業組織論に応用した分野です。合理的な消費者というミクロの仮定は、現実には当てはまらなくて、やっぱり限定合理性というか、色々なバイアスを持っている。じゃあ消費者が合理的でなかった時に、企業がそこにどう漬け込むか？企業が競争することで、消費者のバイアスは是正されるか？競争政策のあるべき姿は？消費者をどう保護するか？そのような研究をしています。

～大学2年生でミクロに出会った～

Q先生も慶應経済ご出身ということですが、学生時代について教えてください！

・日吉時代

1年生の時は、基本大学が楽しくなかったですね（笑）なんだろうね、僕は山口県出身で地方出身なんだけど、慶應のちゃらけた雰囲気合わなかったのかな（笑）まあ自分で打ち込むものが見つけられなくて、あんまり楽しくなかったのかな。

でも2年になって、必修でミクロ経済学に出会ったことが僕の日吉時代最大の出来事ですね。やっぱりマクロだけだとどうしてもピンと来ない部分があるけど、ミクロに出会って、これだよ！って。サークルも2年から理論経済学研究会に入りました。（石橋先生が会長で、今でもメンバー募集中だそうです笑）そんな中で、経済学にどっぷりはまってる先輩や友達にたくさんの刺激を受けた日々でしたね。

今と違って、昔は伝統的な新古典派のミクロ経済学（今でいう春学期のミクロ）のウエイトが重くて、後半の新しい部分がなかったんだけど、そこで出てくる企業は現実の企業のイメージと掛け離れている気がして。その疑問があったから今産業組織論やってるっていうものもあるかな。

・三田時代

三田時代はもうゼミどっぷりですよ（笑）もうほぼ全てゼミ！（笑）ミクロの理論のゼミで、ゲーム理論とか産業組織論とか、当時では結構新しかった部分もカバーしているようなゼミだったから、今思うと非常にラッキーでしたね（笑）

～教育理念は厳しく指導すること！（笑）～

Q先生の教育理念を教えてください！

なんかね（笑）ある程度厳しく指導しないと、いい教育効果は得られないというのが私の信念。まあ自主性を重視とかも言うけど、ほっとくと学生は楽な方に流れるんで（笑）

それから、理論と実証どっちもやるのがポリシーですね。僕はもともとは理論なんだけど、理論と実証はどっちもやらないといけないなどある時点で考え始めて。理論は最終的には現実の問題を考えるためにあるわけだし。逆に理論モデルが出て来ない実証っていうのも不健全な気がしますね。産業組織論という学問が理論から実証に流れていくのを肌で感じて、教育にもそれを取り入れていかなきゃいけないなと思いましたね。

～向上心を持って～

Qゼミを志望する学生に求めるものは？

将来こういう風になるために、ゼミでこういう勉強しときたいんだ！っていうのかな。志み
たいなものを持ってもらいたいなと思いますね。

それから、経済学をやる上で必要となる予備知識はしっかりつけておいてもらいたい。具体
的には数学(微積、線形)と統計学。どう使うのかイメージしにくいから、なかなか1、2年
生でモチベーションを保ちにくいと思うんだけど、でもやっとなかないと後悔する。三田だけ
じゃなくて社会に出てからも使うからね。

ただ、入ゼミ試験では成績を求めないことにしています。まあ、やっぱりこれからのことの
方が大事だから！(笑)でも、しっかりと勉強しておいて欲しいですね(笑)

ついでに言うと、ミクロの基礎が無ければどんな経済学も出来ないからね(笑)これは全学
生に言うておきたい！(笑)

慶應経済の学生には、楽しんで単位を取ることを、ではなくて、自主性を持って、自分がやるべ
きことを自分で見つけてもらいたいですね。

Q石橋ゼミの魅力は？

なんだろうな～。本ゼミ、サブゼミ、パートゼミとあって、僕自身サブゼミにも出ます。や
っぱり僕が出ないと怠けるから(笑)

それに指定授業もたくさんあるので、割とゼミにどっぷり浸かれる環境は用意してますね。
産業組織論だけでなく、その周辺の分野もしっかり勉強できる環境です。

どんな企業に勤めるにしても、産業組織論をやっとくと役に立つ！と思ってます。

～ゼミの大切さ～

Q最後に一言お願い致します！

そうだね、ゼミがどれだけ大事かを言うておこう！三田に来ると、授業は基本大教室だし、
きめ細かい教育をする場がなかなか無いんだけど、ゼミにはそれがある。どんな少人数制授
業よりも、人と人との関わりが密だしね。勉強以外のところでも色んな出会いやコミュニケ
ーションがあって。これを逃す手はないよ！(笑)ゼミに入るのと入らないのとでは雲泥の
差だと思う！卒業してからも関係が残るってゼミ以外にはなかなか無いだろうしね。僕自
身も毎年ゼミの同期と三田会していますね(笑)

・編集後記・

私は2年生の秋のミクロが石橋先生で、それはまさに私にとって「日吉時代の大きな出来事」でした。ラッキーでした！（笑）石橋先生のミクロの授業は板書させられるスタイルなので、もともとあまり授業を聞いていなかったのにいつの間にかしっかり板書するようになって、気づいたらミクロ経済学って面白いな～と思っていました。私にとって、石橋先生は経済学の面白さに気づかせてくれた恩人です。

最後になってしまいましたが、インタビューを受けていただき本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。